

# 「平家の落人伝説を歩む②」

（錦江町田代麓・川原地区）

今月は、「田代の歴史」からの情報をもとに制作しました。

錦江町の田代地区には、川原地区に続き、平家の落人伝説が残っています。今月は、田代家・小牧家の由来についても解いてみたいと思います。

田代家の由来について「田代家自伝文書」の中に、田代清定が文明5年（一四七三）に「田代家之事」として、書いた次のような文書が残っているようです。

田代家の先祖は、平重盛の二男である資盛の子孫である。平家の都落ち後、資盛・実盛・時盛と4代に亘って隠れ住んだ。時盛は近江国の建部大明神の神主となって、姓も建部と改めた。そして鎌倉幕府に願ひ出て大隅国祢寝院を給わり、姓号を野上田伊代守と改めた。時盛には3人の息子がいた。長男の存盛は佐多を譲られて佐多氏となった。二男の兼盛は田代を譲られて田代氏となった。三男の成盛は祢寝を治めることになった。

祢寝・田代両氏とも平重盛

（平家の全盛期をつくった平清盛の長男で優秀な人物だったといわれています）の子孫としていますが、祢寝氏が先祖を重盛の長男の子孫としているのに対し、田代氏は二男の子孫としているところが興味深いところです。

この文書が書かれたのは文明5年（一四七三）ですが、3年前の文明2年には田代清定は鹿兒島に移り、島津氏に仕えています。また、3年後の文明8年には、田代氏（清定の二男立清）は祢寝氏の12代重清によって田代の領地を併合されています。このような背景が関係するかも知れません。文献から見てこの頃から島津家と交流があったことが分かります。

田代家が平資盛の子孫であるのに対し、小牧家は侍大将としています。文治元年（一一八五）、戦いに敗れ日向灘を南下したが、暴風で遭難し、12月16日に田代にたどり着いた。正月も近いのに門松やしめ

縄も飾れず、餅もなかったため、生ダイコンを輪切りにし、餅の代わりとした。それ以後、正月には餅をつかず、ダイコンを輪切りにして供えるしきたりになっている。輪切りにした大根をオバンデコンという。なお、このダイコンについては、大原家・中野家も同じだそうです。

現在においても、刀や槍など残っており、小牧家の氏神社で小牧家・舞原家など親族が集まり、祖先を祭っているそうです。

平家の落人伝説にまつわる伝説や史跡などありましたら、

情報提供をお願いいたします。

次号は平家の落人伝説が残っている池田地区方面へ向かって歩んでみたいと思います。



小牧家の氏神



4月から、錦江町の歴史や言い伝え、昔の遊びや行事など、特集を組んで取り上げています。

町史や各資料より調べ掲載していきますが、掲載した内容と違う見解の資料などありましたら、錦江町役場企画課広報へご連絡下さい。錦江町の歴史や文化をひも解き、観光や地域づくりに繋げて行きたいと思ひます。また、個人でお持ちの歴史的資料や写真、言い伝えなどありましたら、取材や調査に行きたいと思ひますのでご連絡下さい。

【問い合わせ先】 錦江町役場 企画課 Tel 0994-22-3032